



自治労音協通信

第71号
2011年1月1日発行

発行責任者 会長 磯野 友一
編集責任者 事務局次長 小川 典子

行く年来る年☆2010ダイジェスト

第43回はたらくものの音楽祭 北から南から大集合

10月9日、音楽祭初日の夜、新潟県教育会館で開催された全国交流会は、新潟の実行員会のリードで、大いに盛り上がりま



全国交流会で歌うBaby★Baba



音楽祭全国交流会で今村さん指揮で合唱

新春のお慶びを申し上げます

昨年は、新潟ではたらくものの音楽祭に多くの会員のみなさまと出演することができました。二〇一一年は香川県で開催されます。日常の成果を発表する場として、日音協に結集し働くものの文化活動を交流し前進させていきましょう。

自治労音楽協議会会長 磯野 友一

2011年 元旦



第43回はたらものの音楽祭合唱



みなさまからの投稿をお待ちしています！

E-Mail: jicogawa@jca.apc.or.jp 住所変更は必ずお知らせください！

『自治労音教ホームページ』 <http://www.jca.apc.org/~jicogawa>

『自治労と音楽のページ』 <http://www33.ocn.ne.jp/~tmatsu>

『日本音楽協議会』 <http://www.yomogi.or.jp/~uncle>

♪ 事務局から
のお知らせ

音楽道

職員演芸フェスタ2010
2011年は、ラオスと日本のコラボ
による人形劇が注目

荒川区職労書記長 白石孝

11月30日(火)夜、荒川区内の文化施設「サンパール荒川」で、荒川区職員互助会主催の「職員演芸フェスタ2010」が開催された。6時からの2時間余りで区職員15組・個人が出演、また、定員300人を超えるのべ320人が来場し、会場は大いに盛り上がった。



女性部レク事業のフラダンスメンバー

出演者の内訳は、バンド、ピアノ、フルート、トランペット、合唱、独唱、モノマネ、民謡、日舞、フラメンコ、腹話術、パネルシアターなど盛りだくさん。素人芸もあるが、プロ級もいる。フラダンスは、女性部の今年度レク事業で講習会を開催したところ、50人以上が参加、その中からフェスタには20人以上が出演した。

互助会主催のフェスタは昨年(2009年)に続き2回目だが、区職労は60周年記念事業として「職員演芸大会」を開催し、好評を博した。因みに演芸大会以外の60周年企画では、「頑張れ三宅島! パネル展・観光物産展」「併設くアジアカの子どもの絵と写真展」を区内随一の繁華街にある駅ビルのオープンスペースを借り切って4日間開催した。また、「今よみがえる無声映画」のタイトルで第一人者の活弁士・澤登翠による「チャップリンの冒険」「ロイドの要人無用」「血煙高田馬場」を上演した。いずれも一般公開し、組合員だけでなく、多くの市民に来場してもらえた。

私たち荒川区職労の基本的なスタンスは、労力とお金をかけて作った高価な「〇〇年史」は「積んどくだけ」なので作らない、内輪だけの盛り上がりの割にはお金のかかるパーティはやらない、とし、50周年時からその姿勢を貫いている。

というわけで、パーティの代わりに多くの職員、多くの職場を繋ぐことが出来る演芸大会を企画したので。結果として区職労のこの目論見は大当たりし、当日は雨天にもかかわらず、会場いっぱい(230人)が来場した。また、後援に互助会を引き込み、副区長をはじめ、総務部長、職員課長も招いた。

福利厚生事業の充実を毎年要求し続けてきた結果、カフェテリアプランの充実、職場レクリエーション助成の拡充、非常勤嘱託員の正会員化などとともに、職員交流事業として200万円が予算化され、理事会で検討した結果、組合の演芸大会にきた当局側理事が高く評価したことで、演芸大会を交流事業第1号とすることが決まった。

演芸大会は、かつて「古き良き時代」に職員文化体育会の事業として、職員文化祭の一環として開催されていた。

文化会が演芸大会を、体育会が運動会を担当し、交互に開催していた。60年代から80年代前半までは土曜日に職場対抗の各種スポーツ大会も10種目程度開催され、職場旅行も当たり前に実施されていた。

しかし、土曜日が隔週週休から完全週休二日制となつて、職場コミュニケーションは大きく後退、さらには行政改革による職場の変化、個人主義の蔓延などもあり、職場の雰囲気は徐々に殺伐としたものに変化していった。

組合活動の活性化にとってコミュニケーションの強化は重要である。皆で集まる、何かをやる、は極めて重要である。また、イベント以外に、様々な産地直送の物販も荒川の特徴で、長野の桃やりんご、山形の米や農産加工品、島根の味噌、気仙沼のふりかけ、種子島の黒糖や安納芋、静岡の緑茶、千葉の牛乳などを取り扱い、組合事務所には人が絶えない。人が行き来し、溜まり、集う、を意識して進めてきた。フェスタの準備、運営には組合活動に参加している若手職員や非常勤職員も多く関わり、前記したことが立証も出来た。いろいろな意味で実り多い事業となつた。

演芸フェスタの一週間前には、連合などでお馴染みのホテル・ラングウッドで、同ホテル主催のディナー&コンサートを私がコーディネーターし、おおか静流が、お子様相手の「声のお絵かきワークショップ」と「ディナー&コンサート」を行い、これも評判は上々だった。

そして、明けて11年は、15日に毎年恒例の知的障がい者の社会福祉法人の「成人祝いデイスコパーティ」を、2月5日には、沖繩の「キジムナー」を題材にした一人芝居を、そして3月4日には、ラオスと日本のコラボでの人形劇を主催する。皆さんには、3月4日(金)の「ラオス×日本」人形劇ユニット「チエオボン」をお薦めしたい。ラオス国立人形劇団「カボーン・ラオ」の主演者のラタナコーン・インシエンマイと日本のパントマイマーあさぬまちずこの二人が、「ぼくらの森には」を演じる。

森を舞台に繰り広げる、詩的でちよつとユーモラスな世界。ラオスの森にある木の実や流木、暮らしの中にある丁寧に編みこまれた籠や日常品、それらのモノと身体が互いに交感する、新しい形のパフォーマンスだ。

ともかく見ていただきたい。小道具のアイデア、二人の身のこなし方など、すべてに面白く、また、参考になる。当日は、午後7時開演、会場は町屋駅(千代田線、京成線、都電荒川線)直結の「ムーブ町屋」3階、入場料が前売2,000円。

●お問い合わせは、白石まで。
03-3806-6308
taidou@tcn-catv.ne.jp

私のギター人生 ギターに魅せられて

狭石 利美(東京)

「その弾き方はないじゃない」

イントロが何とか決まり、「それでは合わせてみるか」と歌いだすと、「この辺で弾き方を変えろ」「ここはこういう風に歌っているんだから、それに合わせてギターも弾け」という注文が飛んでくる。もちろんこちらも「イントロのテンポにきちんと合わせて歌いだせ」とか、「音程が下がっているぞ」とかいろいろ負けずに文句を言う。

そんな風に打合せが進んで一番が終わると、次に問題になるのが「中トロ(間奏)はどうしようか」となる。二番はすっと入って、二番と三番の間に入れようと思える。

大体イントロと同じものを間奏に使うことが多いが、それではうまくいかないときは別のものを考える必要がある。

そして最後まで行くとここでまた「エンディングはどうしよう」となる。最初の合わせで、「うんそれでいいんじゃない」となれば「よしよし」だが、大体は「その終わり方はちよつとないんじゃない」と来ることが多い。そこでまた一苦労(一工夫というべきか)することになる。

こんな苦労を毎回「強いられる」もんだから、「ギターを頼みたいんだけど空いてる？」と聞かれると、正直気持ち的に重いものがある。その時の気分によつては、手帳を見て何か予定が入っていると「一安心」なんてこともある。

とにかく伴奏によつて歌(音楽)は生きたり死んだりするから、これほど責任重大なことはない。伴奏をするたびに「もつとアレンジの才能があればなあ」と、つくづく思う。

ファーストコンサートに向けて

75年にセンターにギター教室を作り、いつの間にかサークルに発展し、年目にしてやつと独自にコンサートをやるところまでこぎつけた。こうなると、俄然毎回の練習にも熱が入る。

独奏はそれぞれ勝手に好きな曲をやることにして、毎週水曜日の練習は合奏曲のみの練習となった。今までやってきた曲の中から10曲ほど選び、二重奏、独奏と組み合わせ、それを一部と二部に分け、間にゲストコーナーを設けて亡き小山さんに歌ってもらった。もちろんギター一本の伴奏で。私は二曲ほど伴奏した記憶があるが一曲は「夜の伝説」、ともう一曲は忘れてしまった。

小山さんの思い出

ここであつと横道にそれて、小山さんといえは思い出することがある。彼の伴奏はいろんなところで何度かやらせてもらったが、小山さんは決して「伴奏をお願いします」とは言わなかった。

「機械的過ぎる」

都支部バンドというのがあった。小山さんや狭石啓子の歌を伴奏するバンドのことだ。バンマスが飯島貞親で私は専らセカンドギターを担当していた。

「ギターをお願いします」とか「演奏をお願いします」とでリードギター、セカンドギター、キーボード、アコ、ペー中心で楽器は「伴奏」というイメージが確かに定着している。歌手が主役で伴奏は脇役というところか。しかし実際は両者が全くのところ、一体となって演奏を作り上げている。両者がお互いに頼らずに、譲らずに自己主張しながら、しかし一方ではよく相手の声(音)を聴き、その結果二人の息がぴたっと合ったときに生き生きとした演奏が生まれる。どちらかがどちらかに一方的に合わせるというのは、無難ではあるがどこかきこなく面白さに欠ける。テンポがずれたりするのは論外だ。小山さんはこのあたりをよく心得ていたからこそ、「伴奏お願いします」とは決して言わなかったのだと思う。



やりにくいものがある。

自治労音協滋賀支部のモットーは 「だんない」「だんない」

自治労音協滋賀支部 古谷 昌代

「だんない」と言うのは、英語でいうところの「Don't worry!」の意味とほぼ同じで、「だんない、だんない」と2回繰り返すことによって、「大丈夫だよ、気にしないです」というような意味になります。

地元色豊かな(笑) この名前を引っさげて、9月26日(日)に滋賀県にある『U☆SYONE』という滋賀で一番大きいライブハウスで発表してきました。



U☆SYONEで演奏するダンナイズのメンバー

また、今回初めて滋賀支部として自治労コンサートとはたらくものの音楽祭にも出演し、満足のいく演奏ではないかもしれないけど、本当に楽しい時間が過ごせました。

仕事の合間を縫っての練習だし、住んでいる場所もバラバラなので、活動が続けるのは大変ですが、楽しくて仕方がないというメンバーもいるので、これからも仲間を増やして、滋賀支部の活動を広げていきたいとおもいます。いつでも皆さんのところへ飛んでいきます!!羽はないけど…

☆音源はこちらまで
桃井雅和の連絡先

《住所》〒311-3125 茨城県東茨城郡茨城町下石崎565

《E-Mail》momoi@olive.ocn.ne.jp

※5Mオーバーのでかいファイルの場合は、事前にご相談ください。

CD収録曲の音源募集します!

「自治労仲間の歌」入選曲の作者、または自作のオリジナル曲以外でも作者の了解があればOKです。生テープ、デジタル音源など何でも、桃井事務局長に郵送してください。

「私の趣味」「ハワイアンは楽し!」

古賀 紘一 (自治労東京都本部元執行委員・OBG会事務局長)



真ん中/ギターを弾く古賀さん

高校生の頃ウクレレを買って始めたハワイアン。30年も休止していたハワイアンを再開したのが、アロハ・オタツシャーズと言うハワイアン・バンドの結成でした。6年ほど前になります。きっかけは私の中・高校時代のバスケット・ボール部の先輩が、60過ぎて何パーティー・政治パーティー、それに最近、共通の趣味を持って交友を持とうと、年配女性の間でフラダンスが盛んになって先輩2人と先輩の義弟、そして先輩の友いて、その伴奏等で年に2〜3回の出番が人と私の5人で始めたのがハワイアン・あり、出演料を頂けるようになりました。

練習は月1回程度、毎年2月に新年会を兼ねて定期演奏会を熱海の市町村共済保養所で行っています。手前味噌ですが、始めから見ると回を重ねるごとに大変上達しました。レパートリーも100曲を超えました。演奏のオフアーマーも退職者会・ビヤ・ケット・ボール部の先輩が、60過ぎて何パーティー・政治パーティー、それに最近、共通の趣味を持って交友を持とうと、年配女性の間でフラダンスが盛んになって先輩2人と先輩の義弟、そして先輩の友いて、その伴奏等で年に2〜3回の出番が人と私の5人で始めたのがハワイアン・あり、出演料を頂けるようになりました。

今年の演奏会の予定は、7月に市内のイタリアン・レストランを借りて発表会。8月は地元山花後援会のビヤパーティー、9月に調布市くすのきホールで「ミュージック・フェスタ」、11月には「グアム」島で「フラダンスの伴奏」と結構忙しくやっています。

音楽の他にも「山花後援会」・国際交流協会ボランティア活動・OB会・退職者会・趣味のゴルフと、まあ結構忙しくやっています。でも、どれも楽しいので、健康でいるうちは続けて行こうと思っています。ハワイアンは機会があれば皆様にも聴いていただきたいですね

(機関紙「自治労東京」1188号より転載)